

ハネナガイナゴの分布に関する調査

高田 要・薦田佳郎・宮武美恵子・隅野光代・井原敏明
西浦睦子・河井典子・住田公一郎・住田鈴子・吉田滋弘
(ひとはく連携活動グループ 鳴く虫研究会 きんひばり)

1. はじめに

イナゴはバッタ目・イナゴ科に属するバッタ類の総称で、日本では稲を食べる害虫とされると同時に水田から得られる重要なタンパク源として扱われ、多くの地域で食用とされてきた。筆者の中の高田は、兵庫県加東市にある「やしろの森公園」で数年前から「バッタと遊ぼう」という企画を実施しているが、その中の「イナゴのから揚げを作って食べる」体験は、たいへんな人気がある。

イナゴを食材として採集しているうちに、翅の短い個体と、長い個体がいることに気づいた。これらの正体を知りたくて「親子体験教室・加西夢っこクラブ」40人の親子の応援を得て、2013年に「翅の長さの違い」を基準に種の同定調査をしたところ、翅が腹部の端より短いコバネイナゴ(図1)と、腹部の端より長いハネナガイナゴ(図2)が混生していることがわかった。

2014年には調査地を広げて、ハネナガイナゴに関して再度調査を行ったので報告する。



図1 コバネイナゴ *Oxya yezoensis*



図2 ハネナガイナゴ *Oxya japonica*

2. 調査地と方法

兵庫県南東部の5か所の地点で、調査を行った。調査日と調査員を表1に、図3に調査地を地図上に示し、図4に調査地の環境のわかる写真を示した。

調査にあたっては、捕虫網または素手でイナゴを採集した。2種の区別は翅の長さによったが、その他にも翅端の形状、肛上板、生殖下板、第3腹節の棘状突起を参考にした。(宮武・加納, 1992)

表1. ハネナガイナゴとコバネイナゴの調査地と調査日

地点	地名	調査日	調査員	環境
①	加東市上久米(兵庫県立やしろの森公園)	2014年9月24日	高田要・薦田佳郎・宮武美恵子・隅野光代・吉田滋弘・加西夢っこクラブ	公園の草地
②	三田市弥生が丘(深田公園)	2014年9月24日・26日、10月2日・7日・24日	稲美町立天満小学校、芦屋市立岩園小学校、猪名川町立揚津小学校、稲美町立天	公園の草地

			満東小学校、芦屋市立宮川小学校の3年生児童（同定は八木 剛）	
③	市川町上牛尾	2014年10月21日	高田要	棚田の法面
④	加東市上久米	2014年10月9日	高田要	農道
⑤	加西市中富町	2014年11月17日	高田要	黒豆畑（収穫後）



図3 調査地の位置 番号は、表1に対応。

①やしらの森公園



②人と自然の博物館 深田公園



③市川町上牛尾



④加東市上久米



⑤加西市中富町



図4 調査地の環境 番号は、表1に対応。

3. 調査結果と考察

調査結果を表2・図5に示した。コバネイナゴは今回調査した5カ所のいずれでも見ることができたが、ハネナガイナゴは、いる場所といない場所があった。また、ハネナガイナゴとコバネイナゴの個体数の比率は、場所によって異なっていた。

楠(2007)によると、ハネナガイナゴは、コバネイナゴに比べて、農薬の影響を受けやすい。ハネナガイナゴが多く見られた①(やしろの森公園)・②(深田公園)は、面積が大きく、①では54ha、②でも19haの土地で、無農薬管理が長く続いている。他場所では、例え圃田といえども、隣接する圃場は全て農薬が散布されていて、大きな影響を受けていると考えられる。

また、他県でもハネナガイナゴの生息環境として、湿地があげられている(楠、2007. 青野、2012)。①②のエリアには共通して、マコモやガマなどの抽水植物の茂った湿地が存在している。これらのことから、やしろの森公園や深田公園は、食草、退避地としてハネナガイナゴの生育に適しているであろう。

表2. ハネナガイナゴとコバネイナゴの生息調査結果

地点	地名	調査日	コバネイナゴの 個体数	ハネナガイナゴの 個体数
①	加東市上久米(兵庫県立やしろの森公園)	2014年9月24日	77	42
②	三田市弥生が丘(深田公園)	2014年9月24日・26日、10月2日・7日・24日	111	14
③	市川町上牛尾	2014年10月21日	27	2
④	加東市上久米	2014年10月9日	14	0
⑤	加西市中富町	2014年11月17日	30	0

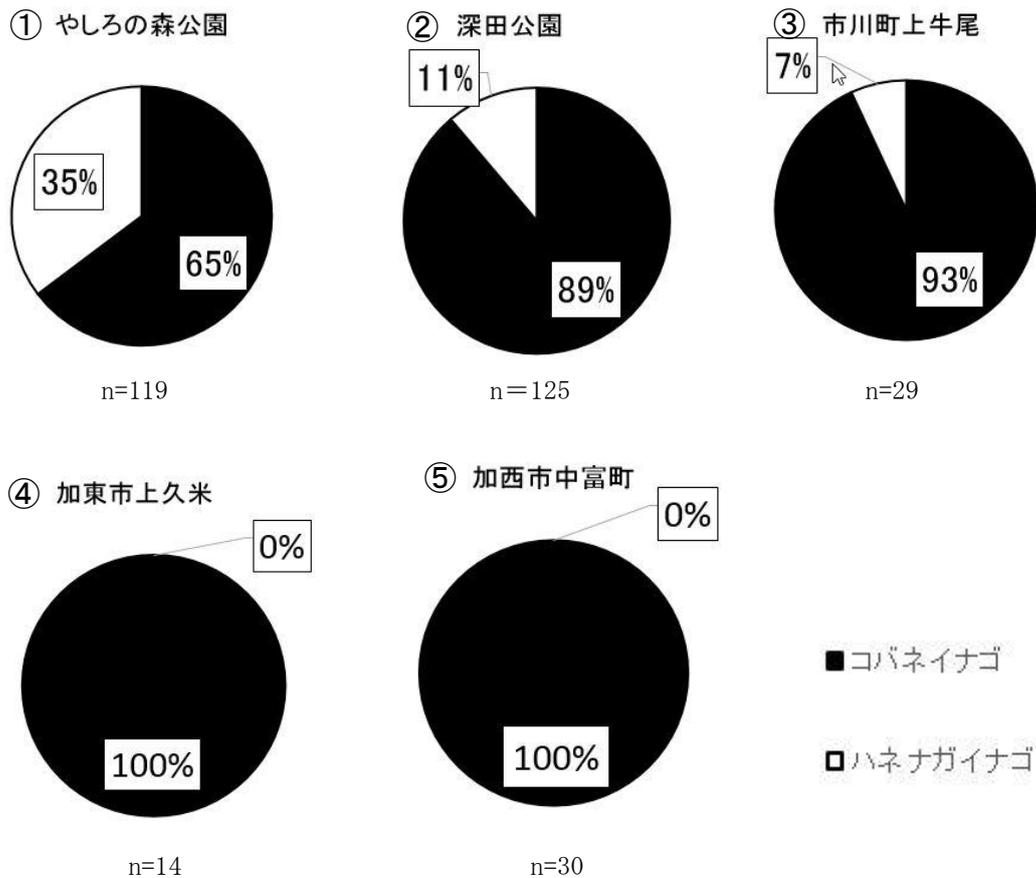


図5 ハネナガイナゴとコバネイナゴの個体数の比率

4. 今後の課題

今回5箇所での調査を行ったが、さらに場所や時期を変えて、ハネナガイナゴ・コバネイナゴの有無や個体数の比率の調査を行っていききたい。

5. 謝辞

今回の報告を行うにあたり、データの提供・見方・まとめ方に関し兵庫県立人と自然の博物館・主任研究員の八木剛先生に懇切な御指導を頂戴しました。ありがとうございます。また兵庫県立大学・大谷剛名誉教授にもアドバイスを頂きました。合わせてお礼申し上げます。

6. 参考文献

- 1) 宮武頼夫・加納康嗣. 1992. 検索入門 セミ・バッタ. 北星社. 53-56
- 2) 楠 幹生. 2007. 香川県農業試験場研究成果「豊穰」45号. ハネナガイナゴの発生状況と薬剤の効果. <http://www.pref.kagawa.jp/noshi/seika/houzyou/45pdf/45crop4.pdf>
- 3) 青野孝昭. 2012. 倉敷市立自然博物館友の会メーリングリスト <http://www.freeml.com/kuranet/14501>